

編集後記

本号の巻頭言は名古屋大学大学院の山田健太郎教授にお願いいたしました。

鋼橋のアフターケアである維持・管理につきまして、鋼橋メーカーの技術力を信頼して頂いた上で、その役割と取り組む姿勢について貴重なご意見を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

本文では、社会資本整備の重要課題である都市再生における渋滞対策としての立体交差に対して、工期と交通規制期間の短縮が可能であり、今後一層の採用が期待される架設技術であるQS工法の施工報告が掲載されております。また、新技術であるFRP合成床版、鋼・コンクリート合成床版・合成床版橋についても研究・開発成果および施工実績が報告されております。さらに、鋼橋のアフターケアである維持・管理に関しましても疲労亀裂の補修、桁端腐食にともなう補修について報告されており、本誌において宮地の新設橋梁の開発・設計・架設から既設橋梁の補修に至るまで幅広い技術を報告させて頂いております。今後も更なる技術研鑽を進め、より多くの成果を報告し、橋梁に関する技術の向上に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者の御協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。

宮地技報編集委員会

委員 長	高橋 亘						
副委員 長	能登 宥 愿	太田 武美					
委員	岩下 宏*	上原 正	佐藤 浩明				
	鈴木 徹	永見 研二	中村 佐吉				
	永谷 秀樹*	西垣 登	牧野 克彦*				
	松本 泰成	宮崎 好永	百瀬 敏彦				
	矢ヶ部 彰	矢崎 満	山越 信也				
	吉川 薫						

*印 事務局兼務

宮地技報 第21号

発行日 平成18年1月31日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町7番5号

(豊和大伝馬町ビル) TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社